

■ネットワーク・コミュニティのモデル試行(DO)

町外コミュニティとネットワーク・コミュニティの実装検討 二本松～安達エリア



杉内仮設エリア

安達仮設エリア

浪江文化継承の拠点

連携教育の拠点 文

様々な暮らしを実現する公営住宅

県営復興公営住宅200戸

戸建型公営住宅(70戸)

郊外型町外コミュニティの形成

生活サポートセンター

まちなか拠点/ぐるりんこ拠点

郊外型町外コミュニティの形成

郊外型町外コミュニティの形成

新ぐるりんこ

杉内仮設エリア

ぐるりんこ拠点

郊外型町外コミュニティの形成

生活サポートセンター

温泉を利用した福祉ケア拠点

協働復興まちづくり拠点

■なかよし号 第2次社会実験の様子



浪江町民の交通支援

二本松でワゴン車運行

東京電力福島第1原発事故で二本松市に避難する浪江町民を乗せ、同市の仮設住宅や借り上げ住宅などを巡るワゴン車「新ぐるりんこなかよし号」が11日、運行を開始した。2カ月間の実験運行だが、利用者が増え避難者の「足」として定着すれば本格運行に移行し、避難者同士の絆をつなぐ。まちづくりNPO新町なみえ（神長倉豊隆理事長）が、各地に分散した町民のコミュニティを維持するため、交通弱者の移動手段を確保しようと企画した。

震災前、浪江町商工会が買い物支援で運行していた「なみえeーまちタクシーぐるりんこ」のノウハウも活用。ワゴン車は被災地の支援活動に取り組む日本カーシェアリング協会から有償で借り受け、同市の安達運動場仮設住宅に住む松本尊吉さん（42）が専属ドライバーを務める。携帯電話を使った「みまもりシステム」による予約もできる。

6人乗りで、料金は片道300円。神長倉理事長は「車を使って分散した町民らを結ぶお手伝いができれば」と話す。既に約10人が会員登録（千円）しており、会員の山田トミエさん（79）は「免許がないのでタクシーを使っていた。ストレス発散や気分転換にもなる」と期待した。問い合わせは新町なみえ（電話0243-2161）へ。

運行がスタートした新ぐるりんこなかよし号



修正した町外コミュニティモデル (Check+Action)

福島県営復興公営住宅200戸と隣接地に
民間開発が連携し一体として整備される

「復興公営住宅一体型の 町外コミュニティ」



- アイデア1 復興公営住宅建設と周辺のまちづくりを一体として進める町外コミュニティの整備
- アイデア2 既存の生活サポートセンターを拡充して整備する生活サービス・福祉拠点
- アイデア3 復興公営住宅の隣接地を浪江町などが取得することによる福祉・業施設等の事業用地確保
- アイデア4 明確な二つの考え方に基づいた町外コミュニティの整備
- アイデア5 地域コミュニティの賑わいの拠点として整備する診療所
- アイデア6 豊かな緑地や公園を確保する為の駐車場の配置の工夫
- アイデア7 復興公営住宅建設用地北側の斜面空地の多様な活用
- アイデア8 町外コミュニティの建物建設と併せた住民の移動交通サポートのしくみ整備
- アイデア9 浪江町民が復興公営住宅に優先入居できるしくみの整備



ワークショップで共有されたイメージとアイデア³²

仮設住宅等で築いたコミュニティを維持しながら多様な住まい方を選択できる

安達運動場仮設住宅団地

診療所
高齢者サポートセンター

復興公営住宅

県営復興公営住宅 石倉団地 200戸

コモンステージ安達 65 区画

コメリ

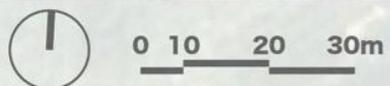
高齢者住宅・アパート
幼稚園
共同店舗
市民農園

など

分譲住宅



JR 安達駅へ
約 1km



施設内容



高齢者住宅・アパート
：地権者との話し合いが進行中



共同店舗：とんかつ志賀・コー
ヒータイム・原田時計店ブース



幼稚園：基礎完成



<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/fureai/>

市民農園：工事完了